

村税戸数割付加税及後半年度分県税徴収ニ関スル同

来十月ハ本年度後半年度分県税徴収期ニ有之候ニ就テハ戸数割賦課方法等村会ノ決議及其他夫々徴収上ノ準備ヲ要シ候ニ付為念左記ノ事項承知致度候間何分ノ義御回示相煩度此段相同候也

一 本年度後半年度分県税ハ今回ノ震災ノ為メ徴収延期等ノコトハ可無之哉否哉右ハ規定ノ通徴収セラレ、モノト心得可然哉

二 万一徴収延期ニ相成候場合ニ在リテハ当村村税戸数割付加税ノ賦課徴収期限ハ左記ノ通村会決議ニ有之候得共右ハ本税タル後半年度分戸数割ガ未ダ徴収セラレザルニ依リ止ムヲ得ズ前半年度分戸数割ニ賦課スベキ義ナルヤ

当村村税賦課徴収期限抜抄

四 戸数割付加税ハ本年度課率ニ依リ県税戸数割前半年度分ニ対スル六倍四分ヲ六月末日限り、県税戸数割後半年度分ニ対スル三倍ヲ十月末日限り、同三倍ヲ十一月末日限り之ヲ賦課徴収ス

(津久井郡役所「庶務回議」(大正一二年) 神奈川県庁蔵)

三七 町村財源補充方法に關する鎌倉郡長の意

見上申書

内務省町村課津谷属ニ提出ノモノ

不足財源ノ補充方法ニ関スル意見

郡内各町村ヲ通シ戸数一萬式千三百四十二戸ノ内八千六百九十四戸ハ倒壊一千九戸ハ焼失ノ厄ニ遭ヒ一般町村民ノ困憊其ノ極ニ達シ震災後既ニ五旬ニ垂ントスルノ今日尚末タ雨露ヲ凌クヘキバラツクサヘ建ツルコト能ハサル窮民不勝状態ニシテ町村費歳入総額ノ七割以上ヲ占ムル町村税ハ前半年度分ヲ賦課徴収セシモ今回ノ震災ノ為町村民心ハ非常ニ荒ミ後半年度ハ一部ヲ除キ大部分徴収ノ見込立タス一般町村經濟ニ極度ノ緊縮、事業ノ打切、基本財産ノ繰入充用ヲ行ヒ歳入出ノ均衡ヲ図ラムトスルモ各町村ヲ通シ尚二十九萬二千七十五円ハ他ニ収入ノ途ヲ講セサルヘカラサルノ有様ニシテ今日ノ場合国家ノ御援助ヲ仰キ長期無利子ヲ以テ之カ歳入ノ欠陥ヲ填補セサレハ町村自治行政ハ一時停止セサルヘカラサルノ境遇ニ陥ルヤモ不計実ニ憂慮ニ堪ヘサル次第ニ有之候前陳ノ事情御諒察相成度意見上申候也

大正十二年十月十九日

鎌倉郡長 茂 義孫

(鎌倉郡役所「震災庶務書類」(大正一二年) 神奈川県庁蔵)

三八 橘樹郡町村長会における郡長演述要旨

郡長演述要旨

(大正十二年十月十六日)
町村長会ニ於テ

大震災後茲ニ各位ノ会同ヲ煩ハシ所見ヲ披瀝シ並ニ各位ノ意ノアル
トコロヲ聞キ相共ニ町村財政其ノ他復興ニ付各般ニ涉リ適応ノ策ヲ
講セントス

客月一日ノ激震ハ其震動極メテ峻烈ニシテ家屋ノ倒潰算ナク其慘害
区域一府四県ニ涉リ殊ニ東京、横浜、横須賀、小田原、厚木、鎌
倉、浦賀、秦野等ノ如キ同時ニ火災起リ殆ント全市町ヲ焦土ト化セシ
メ死傷亦夥ク倍々其慘害ヲ大ナラシメタリ本郡町村ノ被害亦頗ル甚
大ニシテ家屋ノ全潰六千二百六十三戸、半潰九千八百十一戸半焼四
戸死者一千七十七人傷者一千六百七十九人行方不明者四十一人ヲ数
ヘ小学校舎ノ倒潰四十八棟半潰二十九棟ヲ算シ又難ヲ避ケテ郡内各
町村ニ居ヲ移シタル者一時ハ八万余人ニ達シ漸次退減現在二万三千
五人ニ及ブ洵ニ稀有ノ慘状ヲ極メタリ火災ハ一ニ工場ニ起リタル外
夫々之レカ防止ニ努メ大事ニ至ラスシテ其被害ノ増大ヲ来サザリシ
ハ洵ニ不幸中ノ幸ナリキ通信交通機関一時不通トナリ又流言蜚語盛
ニ伝ハリ加フルニ糧食欠之シ人心恟々トシテ不安ノ念絶ヘサリシニ
九月二日東京府ニ三日神奈川県ニ戒厳令ヲ施行セラレ郡マタ上司ノ

命ヲ受ケテ非常徴発令ニ基キ徴発ヲ執行シ又本県ヨリ交付ヲ受ケテ
焚出或ハ糧食ノ配給其他救恤ニ関シ各位ト共ニ臨機ノ方法ニ依リ焦
眉ノ急ニ処シタリ九月十二日 大詔煥発セラレテヨリ漸次人心ノ安
定ヲ見ルニ至レルハ国家ノタメ各位ト共ニ深く慶賀スルトコロトス
コノ非常災害ニアタリ各位ハ激震後直ニ吏員ヲ督励シ区長区代理
者、或ハ町村会議員、小学校職員或ハ大字総代或ハ青年団、在郷軍
人分会、町村内篤志者等協力ノ下ニ罹災者ノ救護、焚出、糧食ノ配
給、死傷者医療手当、被害調査等ニ尽瘁セラレ殊ニ東京、横浜両市
ノ罹災者ハ一時難ヲ避クル為メ昼夜ノ別ナク国道ハ云フニ及ハス鉄
道線路、京浜電気鉄道線路等ヲ往来スルモノ算ナク何レモ徒歩ニシ
テ且飲食スルニ由ナク疲労困憊スル者頗ル多シ此際ニアタリ沿道ノ
町ニ於テハ焚出又ハ湯茶ヲ給シ或ハ休泊セシムル等応急ノ措置ヲ為
シ或ハ小学校舎倒潰ノ処理、水道、道路堤防ノ応急修理又ハ日用必
需ノ諸物資並ニ建築材料ノ買付等ニ至ル迄指導監督東奔西走不眠不
休不斷ノ努力ヲ以テコノ難局ニ処シ其職責ヲ全フセラレタルハ実ニ
感謝ニタエサルナリ
コノ非常ノ秋ニアタリ共ニ郡、町、村、行政ノ職ニアリ心身緊張発
奮努力一同幸ニ健在ナルハ洵ニ同慶トスルトコロナリ
コノ非常災ニ基ク公私ノ損害莫大ニシテコレカ復興ニ関シテハ各

位ノ夙ニ遂行シ或ハ実施中ノモノ又ハ研究考慮中ニ属スルモノ尠ヲ
 ス其ノ苦心誠ニ察スルニ余リアリ殊ニ町村ノ財政ニ至リテハ歳入ニ
 著シキ減額ヲ来シ之ニ亟クニ焦眉ノ急ヲ要スル費用亦極メテ多シ之
 レカ経理ニ関シテハ整理緊縮ノ方法ヲ講シ能ク事業施設ノ緩急要否
 ヲ稽查シ中止或ハ繰延得ヘキモノハ努メテ之ヲ断行シ町村税負担能
 力ノ如何起債ノ適否等ヲ考慮シ自力不能ノ程度ヲ精覈シ之レカ対策
 ヲ講スル等一段ノ努力ヲ致サレムコトヲ望ム

此ノ非常変災後ニ処スルノ道固ヨリ一ナラスト雖モ大ニ人心ノ帰趨
 ヲ新ニシ自奮自励自力ニ信賴スルノ精神ヲ發揮シ格勤力行盛ニ活力
 ヲ積ミ銳意力ヲ復興ニ致シ一層節約ト勤勞ノ美風ヲ勸奨シ以テ民力
 涵養ノ実ヲ挙クルニ努メラレンコトヲ望ム

本郡ノ地勢東京横浜ニ大都市ノ近距離間ニ介在ス兩都市ノ復興計画
 如何ハ其影響決シテ尠少なラスト信ス各位ハ思フ茲ニ潜メ此ノ国家
 非常ノ秋ニアタリ慎重ナル考慮ノ下ニ最善ノ方策ヲ講シ町村自治発
 展上遺憾ナカラシムルタメ格段ノ努力ヲ望ム

以上震災後ニ於ケル措置ニ対シ所見ノ一端ヲ述ヘタリ其ノ他ノ事項
 ニ付テハ別ニ項ヲ別チ協議スルトコロアルベキヲ以テ刻下ノ環境ニ
 順応シタル措置ニ出ラレンコトヲ望ム

〔震災関係書類〕(大正二年) 飯田助丸氏藏

三九 全国町村長会宣言

宣言

這般ノ大震災ハ有史以来未曾有ノ大惨事ニ属シ実ニ人生ノ不幸ヲ極
 メタリ其ノ罹災者ノ直接ニ受ケタル災害ノ甚大ナルハ勿論延ヒテ国
 家社会ニ及ホセルノ影響亦鮮少ナリトセス今ヤ帝国ハ此ノ国難ニ遭
 遇シ是カ善処ノ途ニ対シテ举国焦心維レ日モ足ラサルノ状ニ在リ国
 家基礎団体ノ職ニ任スル吾人ハ深く相戒シメ銳意発奮克ク禍ヲ転シ
 テ福ト為スノ計ヲ策シ此ノ機会ヲ善用シテ百般ノ人事宜シク更革ヲ
 加ヘ以テ克ク復興ノ大業ヲ成就シ益々国運ノ發展ヲ促進セシムル所
 ナカルヘカラス殊ニ国家治政上ニ於テハ最モ深く意ヲ茲ニ致シ敢然
 庶政ノ釐革ヲ断行シ民心ヲ一洗シ治國ノ要道ニ一新紀元ヲ画スルノ
 途ニ出ツヘキナリ

顧フニ明治新政ノ方針確定シ明治治國ノ要義ニ基キ立法ノ業漸ク整
 フト共ニ地方制度ヲ施行セルハ国家ノ振興上固ヨリ如斯アラサルヘ
 カラサルニ因レルナリ然ルニ爾來数十年国政ハ却テ中央集權ニ傾キ
 地方自治政治ニ分任セラルル所寧ロ縮少セルノ感アリ地方振興ノ実
 ヲ挙げ得サルノミナラス国民ハ其ノ滋繁迂遠ノ政治ニ厭キ国運ノ進
 歩亦是カ為メニ阻害セラル、ヲ見ルハ甚遺憾トスル所ナリ

根本的行政整理ヲ断行シ税制ヲ整理スルノ急要ナルハ本会年来ノ主

張ニシテ災後ノ今日ハ愈々其ノ急要ヲ感ス地方自治権ヲ尊重シ政務分任ノ範圍ヲ拡張シテ行政ノ簡捷ヲ圖リ特ニ都市ノ施設ノミニ偏傾シテ地方振興ノ施設ヲ閑却セルハ此際ニ処シ最モ革正セサルヘカラス地方自治行政ノ範圍ヲ拡張スルト共ニ曩ニ主張セル地租營業稅委讓ノ如キ或ハ今日ノ場合國庫ノ急迫ニ処センカ為メ急速之ヲ施行スルコト能ハサルヘシト雖近キ將來ニ於テ必ス之ヲ實現スルノ計ヲ定ムルノ要アリ都市復興ノ急ナル何人モ異議ヲ挾ム所ニアラスト雖モ地方ノ實力ヲ都市ニノミ集中シ之カ為メ地方ノ財源ヲ涸渴セシメ生産力ヲ阻害シ地方經濟ヲ乱スカ如キ挙ニ出ツルハ決シテ國家ノ基礎ヲ安泰ナラシムル所以ニアラス宜シク都鄙相俟ツテ國富ノ充塞ヲ期スヘキナリ若シ夫レ復興費ノ財源ニ對シ内國債募集ノ如キ地方民力ノ困難セル今日ニ於テ地方行政ノ振興ヲ顧慮セスシテ之ヲ行ハント欲スルモ事容易ノ業ニアラサルヲ憂フ

更ニ吾人ハ震災ノ跡ニ徴シ又是ニ伴フテ現レタル事實ニ鑑ミ戰慄ヲ禁スル能ハサルモノアリ此際國民思想ヲ善導シ其ノ輕躁ヲ誡メ以テ思慮ノ重ンスヘキヲ教訓スルハ最モ急務ナルヲ感ス彼ノ英國ニ在リテハ大戰酣ナルノ時ニ於テ義務教育年限ヲ延長シ補習教育ヲ義務制トナセリ國家危急ノ場合ニ処シ尚且ツ教育ノ振興ヲ急務トスル大國民ノ襟度ハ當ニ如斯ナラサルヘカラス

如今宜シク國民教育ノ向上發展ヲ策シ青年教育ノ普及ヲ講シ以テ國礎ノ鞏固ヲ圖リ社会ノ安寧ヲ維持スルコトニ力ヲ効スヘキナリ經濟生活ノ改善ヲ要スルハ一ニ旧來馴致シ來レル陋習ヲ打破スルニアリ災前ニ於ケル我國民生活ノ状態ヲ回顧スルニ奢侈淫蕩漸ク風ヲ為シ寒心ニ堪ヘサルモノアリ之ヲ日常ノ生活ニ見ルニ其ノ贅費ノ多キ其ノ行動ノ規律アラサルコト恐クハ文明諸國中多ク其ノ比ヲ見サラン國民ノ驕逸荒怠ヲ誡メ其ノ反省ヲ促シ真摯實実ノ美風ヲ助長スルハ此ノ時局ニ処スル為政上ノ喫緊要務タルヘキヲ信ス

本会ハ災後ニ善処センカ為メ特ニ臨時總會ヲ開キ茲ニ其所信ヲ天下ニ宣明シ挙國一致之力貫徹ヲ期セントス

右宣言ス

大正十二年十一月八日

全国町村長会

(全 神奈川県 国町村長会書類(大正九—昭和九年) 大磯町役場蔵)

三〇〇 神奈川県町村長会決議(二一)

(一)

決議

一 大正十二年九月一日以後ニ付課セラルベキ大正十二年度及大正

十三年度国県税ノ全部ヲ免除セラレタキコト

二 大正十二年九月一日以後付課スベキ大正十二年度及大正十三年
度国県稅付加稅全部徵收不能ニ基ク町村稅ノ欠陥ヲ国庫ニ於テ負
担セラレタキコト

三 小学校費土木費等公共団体ノ經營ニ屬スル施設ノ復旧費ハ国庫
ヨリ交付セラレタキコト

四 政府ハ速ニ低利資金ヲ以テ罹災地ノ住宅建設及産業商工業ノ復
旧ニ要スル資金ノ融通ヲ計ラレタキコト

五 労働賃金ノ標準ヲ一般ニ周知セシメ之レカ徹底的取締ヲセラレ
タキコト

六 今回ノ震災救護方法ハ中央ニ重キヲ置キ地方ヲ閉却セラレタル
憾アリ相当考慮セラレン事ヲ望ム

七 農産物及肥料ノ運輸ノ途ヲ速ニ開カレンコトヲ望ム

(注) 西坂勝人「震災狀況報告書」によるとこの決議は十月九日、藤
沢町役場で町村長会幹事会によつておこなわれた。

(二)

決議

一 中央集權ノ弊ヲ矯正シ地方自治權ヲ擴張シ以テ国家ノ堅実ナル
發達ヲ期スルコト

二 根本的ニ行政及ヒ軍制整理ヲ断行シテ經費ヲ節減スルコト
三 稅制ヲ整理シ国民負担ノ均衡ト輕減ヲ図リ地租及ヒ營業稅ハ必
ズ之ヲ地方ニ委讓スルコト

四 災害地復旧ニ意ヲ用フルト共ニ地方振興ニ對シテハ一層ノ力ヲ
尽スコト

五 大正十二年勅令第四一七号中穀類並乳製品ノ輸入稅免除ヲ速ニ
撤廢スルコト

六 郵便貯金簡易生命保險資金等ハ力メテ之ヲ地方ニ融通スルコト
七 市町村吏員ハ其ノ關係区域内ニ於テモ国道府県會議員ノ被選舉
權ヲ有セシムルコト

八 衆議院議員ノ配當ハ郡市均等ノ人口ヲ以テ標準ト為スコト
九 震災ニ伴ヒ現レタル事實ニ鑑ミ國民思想ノ善導ヲ図ルハ最モ急
務ナルヲ感ス宜シク國民教育ノ向上發展ヲ図リ特ニ青年教育ノ為
メニ力ヲ効スヘキコト

以上

(神奈川県 全 国 町村長會書類) (大正九—昭和九年) 大磯町役場蔵)

三三 橘樹郡町村長會決議

大正十二年十月十六日橘樹郡町村長會決議

一 大正十二年九月一日以後ニ賦課セラルヘキ大正十二年度及大正

十三年度国県税ノ全部ヲ免除セラレタキコト

二 大正十二年九月一日以后賦課スヘキ大正十二年度及大正十三年

度国県税付加税全部徴収不能ニ基ク町村税ノ欠陥ヲ国庫ニ於テ負

担セラレタキコト

三 小学校費、土木費等公共団体ノ経営ニ属スル施設ノ復旧費ハ国

庫ヨリ交付セラレタキコト

四 政府ハ速ニ低利資金ヲ以テ罹災地ノ住宅建設及産業商工業ノ復

旧ニ要スル資金ノ融通ヲ計ラレタキコト

五 労働賃金ノ標準ヲ一般ニ周知セシメ之カ徹底的取締ヲセラレタ

キコト

六 今回ノ震災救護方法ハ中央ニ重キヲ置キ地方ヲ閑却セラレタル

憾アリ相当考慮セラレムコトヲ望ム

七 農産物及肥料ノ運輸ノ途ヲ速ニ開カレンコトヲ望ム

(飯田助丸氏蔵)

(注) この決議は神奈川県村長会決議と同文である。

三三 神奈川県町村長会決議にたいする政友会

森恪の返書

全国町村長会長 金子角之助殿

衆議院議員 森 恪

大正十二年十一月卅日

拜 啓

去ル二十二日神奈川県政友会支部ニ御來訪被下全国町村長会神奈川
県町村会幹部トシテ御決議ヲ御示シ相成小生ノ贊同ヲ御求メ相成候
ニ就テハ御決議ノ次第並ニ御希望ノ内容ヲ帶シ小生ニ於テ左ノ如キ
行動ヲ起シ申候

即チ御希望ノ目的ヲ達成スルニハ議會ニ於テ予算及法令ノ改廢決議
ニ依ルベキモノト信ジ候ニ付キ先ヅ衆議院ノ絶對多数党タル政友会
ノ議ヲ決スルガ第一要議ニ有之政友会ハ対議會ノ方針ヲ樹ツル為メ
政務調査会ニ特別委員ヲ設ケ小生モ其委員ニ選定サレ候ニ就テ昨廿
九日ノ同委員会ニ貴会ノ御決議ノ精神ヲ帶シ充分主張力説シ政府ガ
災害ノ善後策ニツキ都会地ニ厚クシテ兎角地方ニ薄キヲ以テ左ノ如
ク調査綱目ヲ立テ之レガ矯弊ヲ為サントスルコトニ決議相成申候

政友会財政經濟特別委員会決定調査項目

第一 震災地域復興施設ニ関スル件

一 産業復興ニ関スル施設

一 農産物其他ノ地方生産品及ビ肥料其他生産ニ必要ナル物資ノ運

輸配給ニ関スル件

〔註〕右ハ町村長会ノ決議第七ニ該当スルモノニ候

一 国家ノ施設ニ係ル营造物復旧ニ関スル件

一 公共団体ノ施設ニ係ル营造物復旧助成ニ関スル件

〔註〕右二項ハ町村長会ノ決議第三ニ該当スルモノニ候

一 公共団体ノ負担補助ニ関スル件

一 道路、橋梁、河川、堤防ノ復旧ニ関スル件

〔註〕右二項ハ町村長会議ノ第二ニ該当スルモノニ候

一 耕地山林ノ復旧ニ関スル件

一 工場、住宅、店舗等ノ建設助成ニ関スル件

〔註〕右ハ町村長会ノ決議第四ニ該当スルモノニ候

一 震災地国県税減免ニ関スル件

〔註〕右ハ町村長会ノ決議第一ニ該当スルモノニ候

一 火災保険ニ関スル件

一 東京横浜復興計画是レニ伴フ予算及ビ財源

一 復興院予算

右ノ通りニ有之政友会ハ之レヨリ進ンデ党議ヲ確定シ議會ニ於テ自然貴会ノ御決議ニヨル御希望ノ達成ニ進ムコトノ相成可申小生ハ又々充分御尽力可致覚悟ニ御座候左様御了承被下猶貴下ヨリ各町村長

ニ御伝へ被下度右過日ノ御会見ニ対スル御答旁々申上候 敬具

〔神奈川県 国町村長会書類（大正九―昭和九年）大磯町役場蔵〕

三三三 神奈川県町村長会の決議請願運動に関する

会長の状況報告

拜啓寒威益々相加候処各位益々御健勝自治牀の為慶賀の至りに御座候陳者本会臨時大会の決議実現を期せん為去る二十六日金子〔久良岐〕、小林、遠藤〔都筑〕、川辺、金谷、安西、長谷川、後藤、田野倉、遠藤〔上郡〕等諸幹事と共に県会議員控室に集合同議事堂に於て郡部県会議員諸君に会見し決議実行に對して助力を懇請し猶安河内長官にも面会其助力を願ひ申候翌日は前記諸幹事と共に上京致し内務大蔵兩省総理大臣官邸等を訪問し災後善処の方法として決議七項を陳情仕り更に革新倶楽部憲政会政友会を訪問各幹部に応援助力を懇請仕候其後新聞紙の報導によれば小泉代議士は憲政会政務調査会に本会大会の決議事項を報告せられ努力せらるゝとの事に御座候又森代議士より熱誠なる書状に接し申候要するに今後吾人の奔走努力は勿論必要に候得共天下の大政党たる政友会と憲政会の応援同情を得ば其実現を期することを確く相信し申候政府当路者に於ても過般本会役員両度上京中大蔵大臣主税局長内務省地方局長町村課長農

商務次官農務局長等に面陳頗る同情ある御語を得しは誠に本会の多
とする所又本県会郡部議員諸氏が本会と其見を同ふし建議案を可決
し其筋に稟請せられたるは一層の力添へられたる事と感謝の次第に
御座候今後尚一段の御協力御尽瘁を得度爰に森恪氏來信の写を添へ
御報告旁々得貴意候

十二月四日

神奈川県町村長会長

金子角之助

町長殿

村長殿

(神奈川県町村長会書類「大正九―昭和九年」大磯町役場蔵)

(注) 前掲三三二。

三三 罹災地町村への国庫融資促進方心得に関

する神奈川県町村長会長の通知

大正十二年十二月二十六日

神奈川県町村長会長

各町村長殿

上級庁ヨリノ照会事項ニ対スル心得ノ件

本月廿二日幹事会ノ決議ニ基キ震災ニ因ル町村歳入欠陥国庫補給
ノ件ニ付上京菅沼、川辺、遠藤、長谷川ノ四委員ト共ニ政府当局ニ

陳情請願仕り候処国庫補給ニ関シテハ未タ成案ナキモ内務省ニ於テ
ハ本年度町村歳入欠陥補填ニ充当スル為罹災地町村ニ対スル融通資
金參千八百万円ノ支出ヲ大蔵省ニ要求相成候処大蔵省ノ査定ニ依リ
結局千五百万円以内ヲ年度内償還ノ条件ヲ以テ預金部ヨリ融通スル
事ニ決定致居候へ共之カ分配ニ付テハ罹災各府県ニ照会セル調査資
料纏マラサル為未タ罹災各府県ニ対スル分配額ニ付テハ確定ニ至ラ
サル旨内示有之候之畢竟スルニ上級庁ヨリ照会セラレタル調査事項
ニ対スル回答順次遅延シ又ハ調査杜撰ニシテ徒ニ照復ニ時日ヲ要ス
ルカ如キ向勘カラサルニ基因スルモノ多キ結果ト存セラレ候
最近県郡ヲ經テ照会セラレタル市町村財政ニ関スル件及震災復旧費
調ノ如キ前記融資額分配ニ関スル資料ニシテ正確且迅速ヲ要スルモ
ノナルニ拘ハラス今尚再調ノ為中央ニ進達スルニ至ラサル趣ニテ年
度内今ヤ数月ヲ余スニ過キス町村ノ不利不勘ハ甚遺憾ノ義ト存候就
テハ今回ノ調査事項ハ勿論將來斯カル事項ニ対スル調査ハ御同様最
正確且迅速ニ調査ヲ遂ケ再調ヲ命セラル、カ如キ事無之様致度今回
陳情ノ結果特ニ其ノ必要ヲ痛感致候ニ付御心得ノ為此段申進候也

(「復興関係書類」飯田助九氏蔵)

三三 震災応急資金国庫補助に關する中郡町村

長会の陳情

震災応急資金国庫補助方ノ義ニ付陳情

震災応急資金国庫補助方ノ義ニ付テハ曩ニ關係各府県町村長会ヨリ各被害地ノ実情ニ基キ陳情ノ次第モ有之候処今猶御許容ヲ得サルノミナラス其ノ償還方ニ関シ再必指示相受候段小職等ノ意外トスル所ニ有之候現下ニ於ケル經濟界殊ニ震災地一帯ニ涉ル商工業ノ不振農家ノ疲弊困憊ハ全ク其極ニ達シ更ニ逐日深刻化シツ、アルノ実情ニ稽ヘ町村ニ於テハ極度ニ財政ヲ整理緊縮シ以テ諸稅負担ノ輕減ヲ図ランコトニ鞠躬致居候ヘ共半面町村ノ現状タルヤ教育衛生將タ土木事業等緊急差措ク可ラサルノ施設事業年ト共ニ滋キヲ加ヘサナキダニ悲境ヲ辿ル震災地町村ノ財政ハ窮乏益々甚シク容易ニ是ガ経理ノ方途立チ難ク全ク困惑詮方ナク此ノ際ニ於テ到底該借入金償還ノ法ヲ講スル余地無キノ実情ニ有之候殊ニ該借入金ハ震災直後当局ニ於テ其ノ慘況ニ深く同情ヲ寄セラレ善後処分シテ応急施設費又ハ歳入欠陥補填費トシテ交付セラレタル特別ノ取扱ニ係ルモノニシテ其ノ態様ニ於テハ借入金ナルモ其ノ実質タルヤ応急救濟費ニ外ナラザレバ將來冥々ノ裡無償処理セラル、モノト信セシメタル當時ノ実情

ニモ有之候条其ノ間ノ事情御洞察ノ上該借入金ハ全部是ヲ国庫補助に相成候様特別ノ御高慮相仰キ度本郡町村長会ノ決議ヲ以テ及陳情候也

昭和五年七月 日

神奈川県中郡町村長連署

(神奈川県 全 国町村長会書類〔大正九―昭和九年〕 大磯町役場蔵)

三三 足柄下郡小田原町の震災借入金国庫補助

期成同盟会脱会通知

拜啓 酷暑ノ折柄益々御清祥ノ段奉賀候陳者今回神奈川県震災借入金免除並国庫補助期成同盟会組織相成候処当町ハ都合ニ依リ脱会致候間御諒承被成下度此段御通知候也

昭和五年八月十三日

神奈川県足柄下郡小田原町長

中田寿一郎(印)

(神奈川県 全 国町村長会書類〔大正九―昭和九年〕 大磯町役場蔵)

三七 橘樹郡大綱村の復興関係書類(二一七)

網発第一四九号

大正十二年十月四日

大綱村長代理

助役 黒川新太郎(印)

議員 飯田助夫殿

本村復興協議ニ関スル件

来ル十月六日午后一時当役場ニ於テ左記ノ件協議致度候条万障御線
合御出席相成度此段及通知候也

記

一 本村小学校舎營繕ニ関スル件

其他村治ニ関スル件

(一)

村會議員及区长協議会

一 開会ノ時 大正十二年拾月六日午后二時

二 会場 大綱村役場

三 出席員左ノ如シ

(イ) 村會議員 拾名

岸新助、岩岡昌司、椎橋仁助、磯部桑五郎、鈴木寅藏、横溝

董次郎、松阪彦八、富川喜代八、竹生源藏、飯田助夫

(ロ) 区长 六名

増田八十吉、金子半次郎、小泉金作、松坂彦八、座間宗助、小

泉辰雄

四 協議事項左ノ如シ

震災ニ依ル各小学校復興ノ件左ノ如シ

(イ) 此ノ際村経済ヲ重シテ一村一校トシテ二部教授ヲ施行スルコ

ト但シ尋常校区域ニ於テハ特ニ従来通学ノ関係アリ部落ノ協議

ヲ纏メテ拾日迄ニ村当局者ニ申出ツルコト

(ロ) 各校トモ教授ヲ開始スルトセハ尋常校ハ篠原東亜ベルベツト

ヲ借受テ「四間ニ式拾間ノ工場アリ」教授開始ノコト

(ハ) 倒潰シタル教室ハ早速青年団員ノ手ニ依リ整理ヲシタキコト

団長ニ相談ノ筈、但シ鳶人夫ヲ使用スルモノトス

(ニ) 修理費ハ公債ニ依ルトシテ低利資金ヲ所用金額丈ケ融通セラ

ル、ヤウ其筋ニ申請スルコト

右之通

(三)

大綱尋常校部内意見

椎橋氏口述

震災ニ罹リ全潰シタル尋常校部内ニ於テハ昨九日篠原八幡社境内ニテ協議会ヲ開キ其ノ結果此ノ場合村経済ヲ重シテ一ヶ所ニテ教授ヲ取ル方針トシ、白幡坊ヶ谷方面ノ児童ノ為メニ二学年ノ分教場ヲ設クルコト其ノ場所ハ通学区ノ便宜ノ位置ニ置クコト兎ニ角不取敢一時児童ヲ收容スル場所ノ選定ヲナスコト

右 大正十二年十月十日午前中本村役場へ出頭セラレタル椎橋仁助氏及堀江校長ノ口述

飯田助夫

(四)

拜啓未曾有の大震災に対しては謹んで御見舞申上候就ては今回の震災に依り本郡内に於ける小学校舎の倒潰せしもの拾数校に及び御同様関係町村として之れか応急策に付て焦心苦慮罷在候へ共此際各個人の損失も多大にあり所謂資力欠乏の折柄之れか復興は仲々の難事業にあり且つ関係町村の大部分は学校建設の為に公債を起して未だ償還中にあり旁以て今後に処する善後策としては低利資金の融通若しくは罹災地として特別補助等の途を辿り度随て関係町村は協議の

上一致の歩調を以て其筋に陳情致し度右御同意被下候ハ、左記事項御承知を煩はし度此段得貴意候

敬具

記

- 一 小学校舎倒潰管繕費の見込額を集会当日迄ニ調査シ置ク事
 - 二 集会の日時及会場は川崎町長より追て通知を乞ふ事
- 以上

大正十二年十月七日

大綱村役場ニ於て

飯田助夫

各町村長殿

(欄外注記)

川崎、保土ヶ谷、大綱、田島、潮田、

大師、御幸、高津、橋、住吉、外ニ

郡視学

(五)

網発第一七五号

大正十二年十一月十二日

大綱村村長 飯田助夫(印)

村会議員 飯田助夫殿

来ル本月十六日午後一時ヨリ本村役場ニ於テ左記ノ件議定ノ為メ村

会ヲ招集候条定刻迄ニ參着セラレ度此段及告知候也

記

一 議案村第二〇号 大正十二年度後半年度県税戸数割大綱村賦課

方法ノ件

一 其他協議事項

大綱村会々議録

一 開会ノ時 大正十二年十一月十六日午后二時

二 閉会ノ時 全年全月全日全五時

三 会場 大綱村役場

四 議案左ノ如シ

第二十号 大正十二年度後半年度県税戸数割賦課方法

第二十一号 本村収入役代理推薦ノ件

五 出席議員九名左ノ如シ

第一番 荻原幸太郎

第三番 鈴木寅藏

第六番 富川喜代八

第九番 磯部桑五郎

第十番 吉田三郎兵衛

第十二番 飯田助夫

第十三番 松阪彦八

第十六番 岩岡昌司

第十七番 臼井義久

六 会議

午后二時一全着席大綱村長飯田助夫開会ヲ宣シ且ツ曰ク前会ニ於テ不肖本村長ニ再選十月十日就職セリ爾今一層ノ御同情ヲ希フ就テハ有史以來ノ大震災ニ就テハ本村ハ郡下町村中災害ノ程度ニ於テ南部町村ニ亞クノ慘状ヲ呈ス当時村治上諸般ノ事務ニ就テハ各位ノ御後援ト役場吏員一全ノ協力奔命ノ結果何等ノ支障ヲ来タサマリシコトヲ深ク感謝スル所ナリ殊ニ本村未曾有ノ伝染病蔓延ヲ告ケタルハ頗ル遺憾トス今ヤ本村ハ之等ノ善後策ニ就キ特別ノ考慮ヲ要スルノ秋ナリ宜敷各位ノ御援助ヲ仰ク次第ナリト述ヘ直チニ議長席ニ着キ之ヨリ第二十号議案ヲ付議スル旨ヲ告ケ第一次会ヲ開キ書記ヲシテ議案ヲ朗読セシム第十番議員ヨリ徴収ノ点ニツキ質問アリ議長ハ本県税ノ執行ニ付テハ来ル臨時県会ニ付議セラレ全潰者ノ減免税等ハ追テ決定セラル、管ナル旨ヲ答ヘ尚ホ全議員ヨリ附加税タル村税ニ対シ本税ノ減免ニ伴フ処理ハ他町村ノ状況ヲ參酌シテ村長ニ於テ適當ト認メラル、所ニ於テ決定セラレムコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ議長ハ

斯ク取り計ヒ差支ナキヤヲ議場ニ諮リ満場一致之レニ同意アリ議長採決ノ結果総起立ニ依リ原案ノ通り次ニ第二次会ヲ開キ議長ヨリ第三次会ヲ省略シテ差支ナキヤヲ議場ニ諮リ満場ノ全意ヲ得採決ノ結果総起立ニ依リ原案ノ通り可決決定セリ

次ニ第二十一号議案本村収入役代理推薦ノ件ヲ付議シ議長ヨリ町村制第八十條第二項ニ基キ収入役故障アルトキ之ヲ代理スベキ吏員トシテ適任ニ付キ推薦セル旨ヲ述ヘ第一次会ヲ開キ議長採決ノ結果数次会ヲ省略シテ総起立ニ依リ原案ノ通り可決ス茲ニ於テ議長ハ前例ニ依リ會議録署名人トシテ第六番、第九番、第拾番各議員ヲ指名シ決議事項トシテ前収入役故吉原愛之助ニ対スル吊慰文及吊慰金額ハ村長ノ適當ト認ムル所ニ於テ処理スルトシ閉会ヲ宣ス

右會議ノ正確ヲ証スル為メ茲ニ署名ス

議長 大綱村長
會議録署名人

(六)

一 恩賜金伝達式挨拶

今回ノ大震災ハ一府四県ニ涉リ物質上ノ損害及精神上其ノ文化ニ

及ホス打撃ノ非常ナルモノアリ東京ノ如キハ安政ノ地震ト明曆ノ大火トカ一時ニ起リタル如シト云ヒ得ルモ横浜方面ハ五十年前ノ横浜村以下ナリ殊ニ本県下ガ震源地テアル丈ニ最モ慘害ヲ逞フスルモノアリ本郡ハ其ノ被害北部ニ輕ク南部ニ重キ感アリ全部ヲ通シテ家屋ノ全潰六千二百六十三戸半潰九千八百一十一戸全焼一、半焼四戸死者一千七十七人傷者一千六百七十七人行衛不明者四十一人ヲ數ヘ小学校舎ノ倒潰四十八棟半潰二十九棟ヲ算シ當時本郡ヘ難ヲ避ケタルモノ一時ハ八万余人ニ達ス本村ニ於テハ全潰八十六戸半潰百十六戸死亡四人傷者五人最モ被害ノ大ナルハ大綱尋常小学校及大綱尋常高等小学校ノ倒潰トス本村ハ被害ノ程度ニ於テ八、九位ニアリ當時我皇室ニ於カセラレテハ非常ニ御憂慮遊サレ御内帑金一千万円ヲ御下賜ニナリマシテ罹災民ヲ賑恤セラレタノデアリマス

其ノ内本郡内ニハ拾万一千六百八十四円ヲ本村ヘハ一千二百三十六円ヲ分配下賜セラレタノデアリマス各大別トスレハ全潰檜、南網島、篠原トシ半潰篠原、白幡、太尾トシ死亡南網島トス 御下賜金ノ内容ハ全潰八円、半潰四円、死亡十六円、負傷四円トス之レガ使途ニ就テハ詔書ノ御趣意ニ依リ精神修養ニ資スルナリ御下賜金ガ能キ記念トナルベキヤウヨリ御使用ヲ願ヒ度ノデアリマス

第3章 関東大震災

住宅	金額	大字/区分	全潰	半潰	死亡	負傷
全潰 八六	六八八	篠原	一三	三一	六角橋	二
半潰 一一六	四六四	菊名	三	六		
死亡 四	六四	大豆戸	六	四		
負傷 五	二〇	太尾	八	一六		
		大曾根	八	六		
		樽	一一	九		
		南綱島	一五	八		
		北綱島	五	六		
計 二一一	一、二三六	計	八六	一一六	四	五

恩賜金之一条事実詳具セラレ正式御申請被下候ハ相当手續相運ヒ可申候御返事まで

大正十二年十二月二十一日

伊東郡長(印)

飯田大綱村長殿

(欄外注記) 本郡

御下賜金十万一千六百八十四円 全潰五、二四五 半潰

九、二九五、全焼一 死亡七、〇六〇 負傷一、二六一
行方不明三三

網発第二二四号

大正十二年十二月二十六日

大綱村長(印)

第 区長殿

村税戸数割還付ニ関スル件

今回住宅全潰罹災者ニ対シ県税戸数割半減ニ相成候ニツキ付加税タル村税戸数割モ全様半減致スベク候ニ付別紙氏名欄ノ下へ調印ノ上御還付相成度及依頼候也

追テ未ダ納入無之者ニハ此際至急納付致スベキ様御取計被下度

(財務調査大綱村分関係書類)(大正十二年) 飯田助丸氏蔵

三六 神奈川県震災誌編纂に関する調査の件依頼

参考

大正十四年一月八日

地方課長(印)

各郡市長殿

神奈川県震災誌編纂資料ノ件

標記資料蒐集ニ付テハ過般本県嘱託員巡回之際御依頼致置候筈ノ処
当課主管ニ属スル左記調査事項大至急御調ノ上御回送相煩度願上候
追而右ハ特急必要ニ付調査済ノ分ヨリ逐次御回送相成本月二十日
頃迄ニハ是非共全部ノ御送付ヲ願度候ニ付右御含ノ上宜敷御取計
相成様特ニ申添候也

記

一 市町村ノ財政ニ如何ナル影響ヲ及ホシタリヤ及財政整理ニ就イ
テノ措置等

二 震災ニ際シテ郡市役所トシテノ活動状況

三 市町村トシテノ活動状況

四 復興計画ノ概要

(三浦郡役所「庶務書類」(大正一四年) 神奈川県庁蔵)

三九 神奈川県震災誌編纂資料三浦郡関係分の

報告

(一)

三収甲第一一二号 宛名 地方課長 署名 郡長

大正十四年三月九日起案 大正十四年三月九日施行

郡長代理(印) 合議(印) 主任(印)

神奈川県震災誌編纂資料ノ件

候
一月八日付ヲ以テ標記資料提出方御照会ノ趣了承別記ノ通及御送付
追テ別記以外ノ事項ハ尚調査中ニ付近日御送付可致候条御了知相
成度申添候

(別記)

一 市町村ノ財政ニ如何ナル影響ヲ及ボシタリヤ及財政整理ニ就イ
テノ措置等

大正十二年ノ大震災ハ九月一日ナリシヲ以テ漸ク年度半ニ達セシ
時ナリ故ニ各町村共其ノ財政状態ハ将ニ第二期町村税ノ徴収ヲ以
テ後半年度ノ経理ヲ処理セントスルノ秋ニ当リ而モ所得税附加税
ノ如キ本月ヲ以テ何レモ徴収期トナセルモノ賦課合書スラ発セズ
且ツ第一期賦課町村税ノ徴収整理モ未ダ充分ナラサルモノアリ為
ニ何レモ在庫金極メテ手薄ニシテ經常支出ニ係ル俸給給料ノ支払
ニモ大ナル支障ヲ生シタルモノアリ尚震災直後ニ当ル第二期町村
税ノ多クハ十月徴収期ナリシモ災後ノ関係上之ヲ徴収スルコト能
ハサリシヲ以テ十、十一、十二月ノ交ニ及ンデ町村財政ノ窮迫一
層ノ極ニ達シ之ヲ一時借入金ニ依リ処置セントスルモ銀行等モ平

時ノ營業狀態ヲ持續セルニアラズ僅ニ國庫ヨリ一般經費ニ対スル一時ノ貸付金ニ依リ辛フシテ支弁セルモノアル等全く異狀ノ窮境ニ陥リタルモノ蓋シ空前ノ事ナルベシ

而シテ當時ノ財政上ニ受ケタル影響ヲ概括セバ三浦郡十三ヶ町村ノ歳入總額金八十三万九千八百五十三円ノ内最初ノ歳入欠陥見積額ハ実ニ拾貳万余円ニシテ之等ハ極力經費ノ節約事業ノ打切中止等ヲ為シ一面借入金ヲ以テ支弁スルコトニ努メ来リ大正十三年一月ニ入り町村稅ノ第二期ヲ徵收シ得ルニ及ンデ歳入欠陥ハ当初ノ見積程ニアラサリシ結果幾分緩和ヲ見タルモ尚逼迫ノ狀態ハ尋常ニアラズ又小学校々舎役場庁舎ノ被害ニ対スル応急措置ニ要スル經費ノ少カラサルモノアリ大正十二年度ニ於テ左記ノ通國庫貸付金ヲ県ヨリ転貸ヲ受ケ一面町村ノ基本財産現金及積立金ヲ為シ得ル限リ運用シ以テ一時ノ急ヲ補ヒタリ

一般經費支弁ノ為ニスル一時借入金 八ヶ町村 金參万二千元
 小学校応急施設費資金トシテ 十一ヶ町村 金貳拾四万五千元
 小学校以外ノ応急施設費資金トシテ

九ヶ町村 金六万二千九百元
 九ヶ町村 金五万円
 小学校以外ノ応急施設費及復旧費ノ一部並
 歳入欠陥補顧資金トシテ

大正十三年度ハ各町村共財政ノ整理緊縮方針ヲ採リ一般經費ヲ節

約シテ住民災後負担力ノ均衡ヲ顧慮シ一面適當ノ資金ヲ求メテ復旧ヲ図ルノ計画ヲ進ムルニ努メタルモ被害極メテ甚大ニシテ其ノ結果左ノ通町村基本財産及積立金ノ現金ヲ運用シ經費ノ節約ヲ図リテ資金ヲ捻出スルモ爾余ノ不足額ハ到底町村自力ヲ以テ適當ナル資金ヲ得ルハ困難ナル事情アリ之ニ対シ更ニ國庫貸付金ノ転貸ヲ受クルコトニ決定シ夫々計画ヲ定メ着々復旧施設實施ニ當リツ、アリ

学校復旧施設ニ要スル經費 金七十三万八千五百円
 右ニ対シ國庫貸付金ノ転貸ヲ受クル額 金五十五万六千七百円
 学校以外ノ復旧施設ニ要スル經費 金三十三万四千二百円
 右ニ対シ國庫貸付金ノ転貸ヲ受クル額 金拾貳万壹千元
 而シテ本件災害ニ依ル道路橋梁ノ復旧等土木工事ニ対シ其ノ工費ノ大部分ヲ國庫ヨリ補助金トシテ交付セラル、ハ町村財政窮迫ノ折柄復旧施設上誠ニ大ナル幸福ト謂フヲ得ベシ

二 震災ニ際シテ郡役所トシテノ活動狀況

1 震災直後ニ於ケル活動狀況

- 一 震災當日庁員一同庁舎外ニ避難シ庁舎ハ幸ニ倒潰ヲ免レタルヲ以テ一名ノ死傷者モ生セサリシハ幸福ナリキ
- 一 庁舎所在地横須賀市内ニハ倒潰家屋頗ル多ク大震後直チニ

庁舎付近ヨリモ出火シタルニ付庁員一同防火ト書類ノ搬出トニ努メタルモ風向宜敷カリシヲ以テ幸ヒ類焼ノ厄ヲ免レ午後五時頃鎮火セリ当日市内数ヶ所ニ火災起リ混乱其ノ極ニ達セリ

一 田浦町ヨリ救護医員派遣方ニ付吏員来庁セルモ通信杜絶且ツ大混乱ノ際ニシテ如何トモスルコトヲ得ズ辛フジテ陸軍衛戍病院ノ看護長以下二名ノ出張ヲ斡旋セリ

一 九月二日郡長以下一同登庁先ヅ以テ郡内ノ被害状況ヲ調査スルコト、シ左ノ方面ニ吏員ヲ派遣シタリ

浦賀町、久里浜村、北下浦村、南下浦村、三崎町、初声村ニ

吏員二名

衣笠村、武山村、長井村ニ

同 一名

西浦村、葉山村、逗子町、田浦町ニ

同 二名

同日郡長ハ浦賀町ノ被害状況視察ノタメ出張シ其ノ他各町村ノ状況ヲ綜合シ被害頗ル甚大ニシテ將ニ食糧ノ飢饉ニ瀕セルヲ認メ浦賀町ヨリ帰来直ニ横須賀鎮守府ニ至リ海軍在庫米等食糧供給ノコトニ付協商ヲ遂ケタリ

一 九月三日一般通信施設杜絶ニ付当分ノ内各町村ヘノ通信ヲ左記方法ニ依ルコト、定メ其ノ旨各町村ニ通達シ災後第一回

ノ通信ヲ發シタリ且ツ通信發送ニ際シテハ震災被害ノ概況其ノ他ノ情報ヲ知り得ル限リ町村ニ通報シタリ

那役所ヨリ各町村ヘノ通信ハ左ノ通区分差立ツルコト

1 浦賀町、久里浜村、北下浦村、南下浦村、三崎町ヲ一区トシ浦賀町ニ差立

2 衣笠村、武山村、長井村、初声村ヲ一区トシ衣笠村ニ差立

3 葉山村、西浦村、逗子町、田浦町ヲ一区トシ葉山村ニ差立

最初到達ノ役場ヨリ順次同区間先方ノ町村分ヲ一括シ遞次急速送達スルモノトス但シ葉山村ニ於テハ西浦村、逗子町、両方面ヘ送達ノコト而シテ本送達ニ要スル人夫ヲ得ル能ハサルヲ以テ那役所ヨリノ送達ハ吏員之ニ當リ町村ニ於テハ青年会員等ノ之ニ従事セルモノアリ

同日米麦粟等食糧節約甘藷馬鈴薯ノ代用食奨励ヲ為シ食糧自給自足ノ永続ニ努メ場合ニヨリテハ町村内ノ米麦在庫高ヲ調査シ町村ニ統一方向町村長ニ通達ス又同日庁内ニ左ノ係ヲ設ケ全吏員ヲシテ夫々担任従事セシムルコト、セリ

庶務係、外部交渉係、救護係、学校ニ関スル係、食糧需給関

係係、通信係

一 九月四日各町村ヨリ吏員続々来庁町村内食糧欠乏ヲ訴へ供給配慮方申出ニ付在米調査ノ為メ浦賀町方面ニ吏員ヲ出張セシメ且ツ各町村ニ対シ町村制第百六条ニ依リ左ノ方法ヲ以テ食糧ノ需給ヲ町村ニ於テ統轄シ極力自給自足ニ努メシムルコトニ訓令ヲ発シタリ

(イ) 警察官吏、町村吏員、議員区長等ヲ委員トシテ自家用ニ十日分ヲ除キテ其ノ他ノ在米ハ商家、農家ノ区別無く全部ヲ町村ニ収用スルコト

(ロ) 町村ニ統一シタル米ハ町村ニ於テ配給ヲ掌リ住民ノ需給關係ヲ円滑平衡ナラシムルコト

(ハ) 極力代用食ヲ奨励スルコト

而シテ一人一日ノ消費量標準ヲ米三合ト定メ食糧自給終期ノ見込ヲ定メ報告スルコト、セリ

同日汽船ヲ艦シ静岡県下ニ吏員ヲ出張セシメ米ノ買入ヲ為サントセシモ汽船用石炭ヲ得ルニ由ナク中止スルノ止ムナキニ至レリ

一 九月五日迄海陸ノ交通杜絶シ居リシモ本日开始メテ駆逐艦ニ便乗横浜市ニ至ルノ便ヲ得タルヲ以テ郡長ハ之ニ便乗県庁ニ

出張郡内罹災ノ状況ヲ報告シ且ツ救護事務執行ニ関シ指示及戒厳令發布ノ通達ヲ受ケ即日帰庁シタリ

又九月三日横須賀市及三浦郡ニ戒厳令適用司令官ノ職務ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ行フ旨發布セラレタル件当該鎮守府ヨリ通達ヲ受ケ之ヲ郡内各町村ニ通牒シタリ

一 九月六日横須賀戒厳地区ニ関スル事務分担及戒厳地区ヲ左ノ通同司令部ニ於テ定メラレ各地区ニ指揮官ヲ出張セシメラルニ付之ニ応シ庁員ノ事務分掌ヲ左ノ各係ニ変更シ夫々活動セシムルコト、セリ

庶務、食糧、建築、衛生、被服、燃料、運輸交通勞務、其他八係

戒厳地区左ノ如クニシテ之ニ吏員一名若クハ二名ヲ出張セシメタリ

〔横須賀戒厳地区〔横須賀市、衣笠村、武山村、西浦村〕

事務所
横須賀鎮守府内

逗子町 〔逗子町、田浦町、葉山村〕 逗子町

浦賀町 〔浦賀町、久里浜村、北下浦村〕 浦賀町

三崎町 〔初声村、長井村、三崎町、南下浦村〕 三崎町

〔高脱〕
摂政殿下御内帑金壹千万円御下賜ノ旨及内閣総理大臣ヨリ告

諭ヲ發セラレタ件本日各町村ニ通達シタリ

本日一般食糧用トシテ外米壹千袋ヲ本県ヨリ配給ヲ受ケタルヲ以テ浦賀港ヨリ汽船ヲ仕立テ吏員二名乗船人夫二十名引率引船ヲ為シ出張ノ上即日積込ヲ了シ浦賀港ニ帰着セリ一面本件外米ヲ最モ食糧ニ欠乏セル町村ニ配給方ノ手配セリ

一 九月七日前日輸送シタル外米ヲ浦賀港ニ於テ各必要ノ町村ニ配給ヲ開始シタリ

非常徴発令及関係法令公布ノ件ヲ本日各町村ニ通達シ同八日曩ニ訓令セル食糧取用ニ関スル件ハ非常徴発令ノ公布ニ依リ施行シタルモノトスルノ件及爾来必要ナル徴発施行ニ関スル意見申出方併セテ通達ヲ為シタリ

一 九月九日暴利取締令治安維持令支払延期令公布ノ件町村ニ通達セリ

本日更ニ吏員ヲ県庁ニ出張セシメ米及食塩配給方ニ付打合テ遂ケシメ外米二千袋食塩千式百俵ノ配給決定ヲ受ケ帰庁シ直チニ引取方法及配給手配等前例ニ依リ処理セリ

一 九月十日学校教育ノ応急措置ニ付遺漏ナキヲ期スヘキ旨各学校長ニ通達シタリ

一 九月十一日県配給ノ外米輸送ニ関シ汽船ノ配備意ノ如クナ

ラズ依テ戒嚴司令官ニ交渉シ駆逐艦ヲ以テ輸送ヲ乞フコトニ協定同艦四隻ヲ派遣セラレ之ニ吏員便乗引取ヲ了シ各町村ニ配給ノ手配セリ

同日戒嚴司令部ニ於テ各地寄贈品ノ郡市配分割合ヲ左通協定セリ

米麦 郡市折半配分ノコト

其他ノ物品 郡三分市七分ニ配分ノコト

一 九月十二日台湾官民ノ寄贈ニ係ル台湾米三百七十五俵ノ配付ヲ戒嚴司令部ヨリ受ケ浦賀町逗子町ニハ駆逐艦ヲ以テ輸送ヲ委託シ田浦町ハ町ヨリ出張現品ヲ引取ラシメタリ同時ニ戒嚴司令部ニ交渉シ海軍貯蔵ノ獸肉ヲ副食物トシテ共ニ配給ヲ受ケ必要町村ニ送付シタリ本日頃ヨリ町村トノ往復漸次頻繁ヲ加ヘ書面ノ往復又増加スルニ至リタリ又京都府其ノ他ノ寄贈品台湾官民ノ寄贈品等漸次入荷シ之カ配分ヲ受ケ各町村ノ罹災程度ヲ斟酌シ夫々配給高ヲ定メ町村ヲシテ引取りノ上可成速ニ罹災者ニ交付スルノ方法ヲ講セシムルコトニ定メ之ガ引取り配給等ニ漸次繁劇ヲ加フルニ至レリ

一 九月十三日震災後第一回ノ町村長会ヲ開会シ食糧配給ニ関スル件施米ニ関スル件、罹災救助ニ関スル件ヲ指示シ罹災者

2

ノ救助ニ関スル協議打合ヲ遂ケタリ而シテ本日ヨリ資力アルモノニハ食糧施与ヲ廢シ可成購売セシムルコトノ方針ヲ以テスルコト、セラレタルヲ以テ右ニ依リ施行方協定セリ

自後食糧其他ノ日用品配給及寄贈品受領等ノ用務漸次増加シ其ノ都度吏員ヲ県庁ニ出張セシメ或ハ戒嚴司令部ヨリ配分ノ寄贈品運搬ノ為メ益々繁劇ヲ加ヘ加之横浜市ヨリハ陸上輸送到底不可能ナルヲ以テ何時ト雖モ海路船便ニ依ルコト、シタリ当時海上風浪高ク舟運非常ニ困難ナル場合多々アリシモ吏員ハ刻苦勵精毎時能ク其ノ任務ニ服シタリ

九月中旬以後ニ於ケル活動状況

- 一 漸次配給品及寄贈品ノ配分ヲ受クルニ及ヒ之ガ受渡ニハ何時ト雖モ吏員出張現品ヲ受領シ輸送ニ從ヒ一旦横須賀ニ陸揚ノ上配給決定方法ニ依リ夫々町村ニ配分ヲ掌リタリ之ガ為メ吏員ヲ出張セシメタルコト數フヘカラス而モ其ノ積込輸送陸揚等ニハ非常ナル苦心ノ存スルモノアリシモ孜々トシテ勵精倦ムコトナク又其ノ配分ハ公平ヲ旨トシ適當ナリシヲ以テ町村及一般罹災民ヨリ些ノ怨嗟ノ声ヲ聞カサリシハ吏員精勵ノ結果ト謂フヲ得ヘシ

一 寄贈品ハ前記県及戒嚴司令部配分以外関西府県連合寄贈ニ

係ル遼東丸積載慰問品ノ直接寄贈ヲ受ケ吏員ヲ淀泊地東京芝浦ニ出張セシメ之ヲ横須賀軍港ニ回航シ横須賀市ト配分受領ノ上各町村ニ配給セリ

一 災後日ヲ経ルニ從ヒ罹災者ハ仮建築ニ着手スル者漸ク多キモ之ニ使用スヘキ亜鉛板釘等ノ材料欠乏且ツ町村ノ營造物底急修築ニモ困難ヲ來シ之等材料ノ斡旋方申出ツル向類ニシテ且ツ其ノ急務ナルヲ認メ戒嚴司令部ニ交渉シ亜鉛板壹万枚及釘百樽ノ有償配給ヲ受ケ尚県ニ請求シテ鉄板ノ配給ヲ受ケ之ヲ町村ニ配分シタルモ需要ノ少部分ヲ充タスニ過キズ依テ十月上旬吏員二名ヲ大阪市ニ出張セシメ同地ニ於テ亜鉛板五万四千枚及釘百六十五樽ヲ買付ケ戒嚴司令部ニ交渉許可ヲ受ケ軍艦阿蘇同地回航ノ際積込輸送方ヲ依託シ同月十五日横須賀軍港ニ到着セルヲ以テ之ヲ各町村ノ必要ニ応シ配分シ以テ需要ノ大部分ヲ充足スルヲ得タリ

其後大阪市、当業者ニ交渉ノ上横須賀市ニ出張販売ヲ開始セシメ主トシテ郡役所斡旋ノ下ニ販売ヲ為シ需給者共ニ遺憾ナキヲ得タリ

一 建築材料トシテハ亜鉛板及鉄板塗料トシテハ「コールタール」ノ供給ヲ必要ト認メ東京電燈株式会社横須賀出張所ニ交

涉シ同所ヨリ取纏メ廉価供給ヲ受ケ一般ニ有償配給スルコト
、シ石油空罐ノ蒐集ヨリ詰込発送ニ至ル迄郡役所之ヲ斡旋シ
総計六百四十罐ヲ頗ル有利ニ供給ヲ為シタリ

其ノ外「セメント」ノ必要ニ迫ラレタルヲ以テ当時神奈川県
三崎築港事務所ニ貯蔵セラレアリシ分千三百三十袋ノ一時貸
与ヲ受ケ之ヲ需要者ニ供給シ後現品移入シ得ラル、ニ至リ現
物ヲ以テ返却シタリ之ニ関スル一切ノ斡旋ハ主トシテ郡役所
ノ掌リシ処ナリ

一 食糧ノ供給ハ最初徴発ニ依リタルモノ及県ヨリ配給ヲ受ケ
タルモノヲ以テシタルモ当時恰モ端境期ニ属シ殊ニ三浦郡産
米ハ消費量ノ約三割ニ過キササルヲ以テ在庫米極メテ少ナク依
テ海軍ノ貯蔵米及政府貯蔵米ノ払下ヲ受クルコト、シ農商務
省食糧局ハ横須賀市ニ出張所ヲ設置セラレ郡市長ヲ払受人ト
シテ受渡ヲ為シ以テ食糧需給ノ円滑ヲ期シタリ

以上ノ外大正十二年十二月末日迄ハ徴発事務慰問寄贈等ノ配給品受
渡事務、罹災状況ノ調査、学校被害調査及応急措置町村ノ財政調査
及応急処置恩賜金ノ配分ニ関スル事務、耕地ノ被害調査及善後措
置、漁業上ニ受ケタル被害調査並ニ善後措置、震災地人口調査事務
ノ為メ頗ル繁忙ヲ極メ吏員一同早出晚退日曜休日ヲ廢シ或ハ徹宵事

務ニ従ヒタル事例等不尠而モ十一月末迄ハ屋外天幕張ニ於テ執務シ
雨露ニ侵サレ其ノ困難名状スベカラザルモノアリシモ一同頗ル励精
救護及応急措置ヲシテ遺憾ナカラシメタリ大正十三年ニ入りテモ引
続キ前記事務ノ継続施行並ニ町村応急施設ニ関スル資金ノ起債等直
接震災ノ措置ニ関スル事務不尠モノアリタルモ終始一貫寢食ヲ忘レ
犠牲的精神ヲ以テ勤務セリ

(二)

三収甲第一一二号 宛名 地方課長 署名 郡長
郡長(印) △合議(印) 主任(印)

大正十四年四月二十日起案 大正十四年四月二日施行

神奈川県震災誌編纂資料ノ件

一月八日付御照会標記之件曩ニ一部及送付置候ニ付テハ尚別記ノ通
取調候条及御送付候

追テ各町村別活動状況ハ近日御送付可致候条御了承相成度申添候
(別記)

三 町村トシテノ活動状況

当時町村トシテノ活動ハ大体郡役所ノ例ニ準シ先ヅ以テ住民ノ救
護殊ニ傷病者ノ救療死体ノ発掘倒潰家屋ノ取片付及引起シ飯小屋